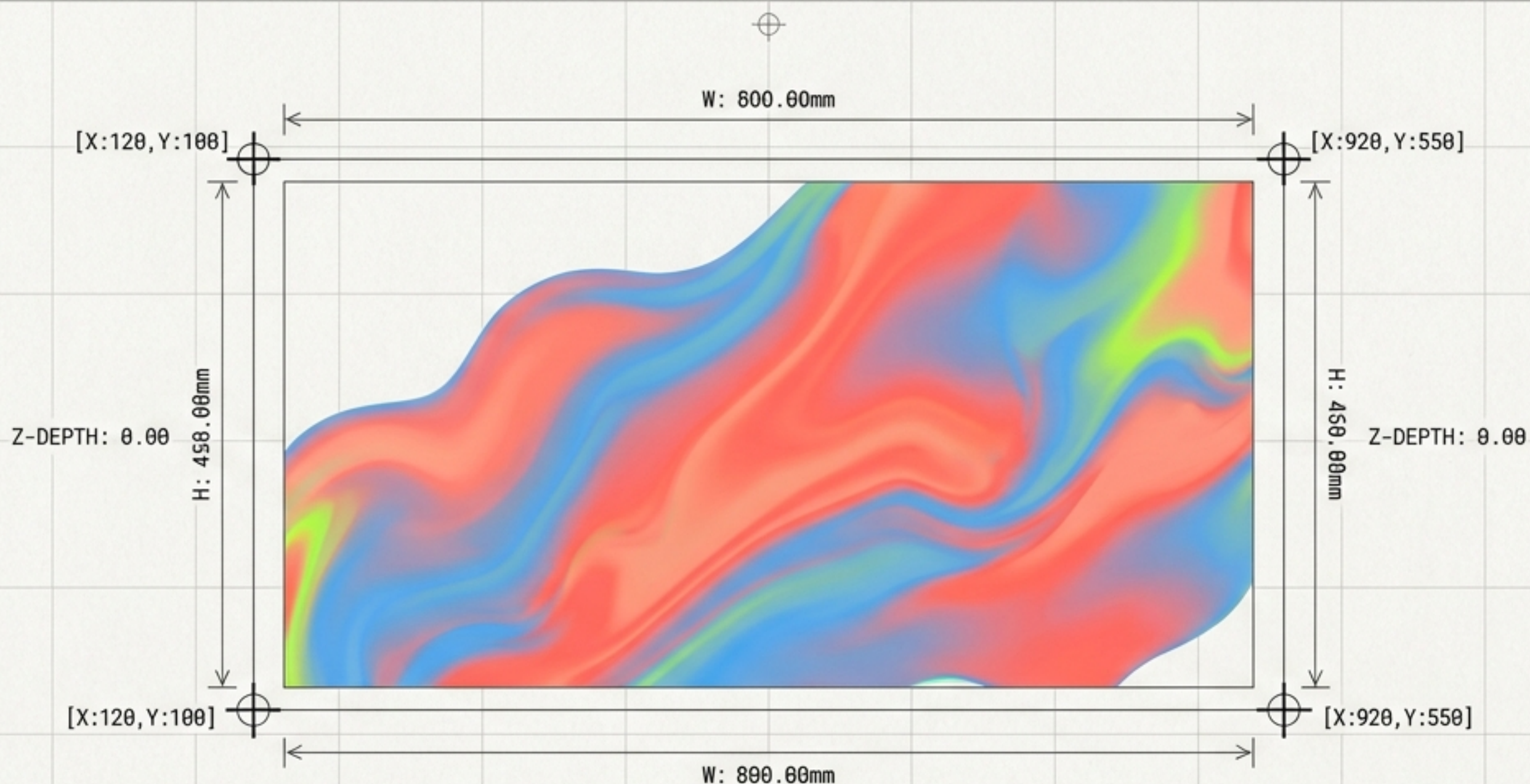


[SYSTEM_READY]



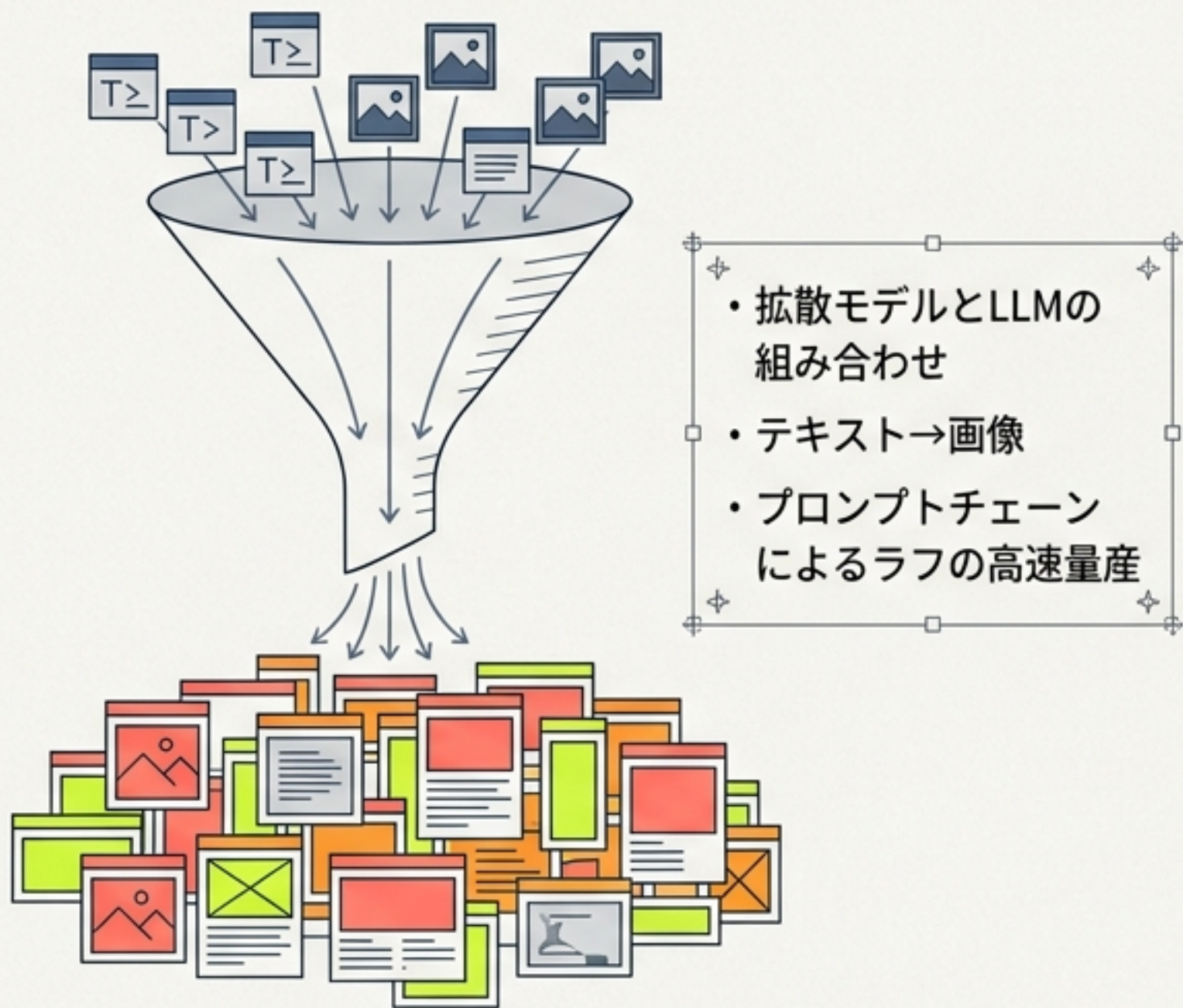
デザイン創作における生成AIの戦略的実装

速度と安全性を両立する「ヒューマン・イン・ザ・ループ」の構築と組織戦略

[GOVERNANCE_ACTIVE]

創造の加速は、同時に新たな組織的ボトルネックを可視化する

[01] 探索空間の拡張と高速化



[02] 顕在化する実務上のリスク

品質・多様性の低下：
発想の同質化（集団としてのアイデアの偏り）

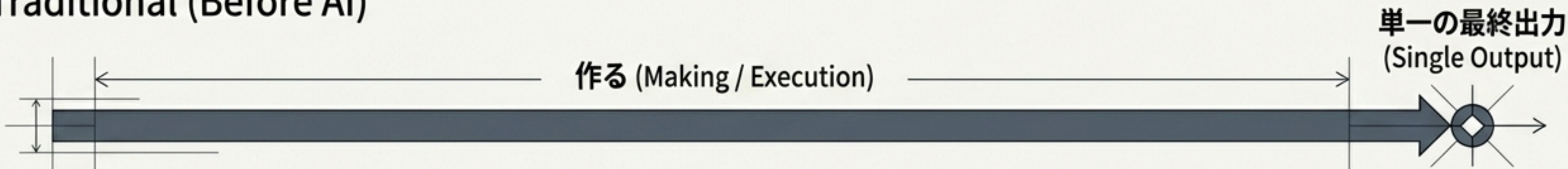
権利・紛争リスク：
著作権・学習データ由来の訴訟リスク

情報セキュリティ：
業務機密・顧客データの二次利用懸念

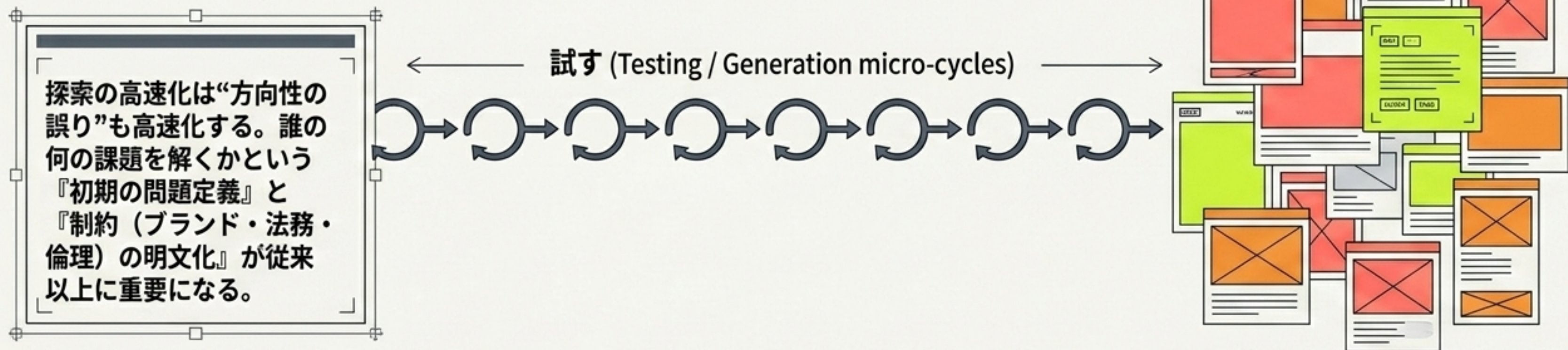
運用・監査の欠如：
再現性のなさ、説明責任の所在の曖昧さ

生成AIは「作る」より先に「試す」コストを極端に下げる

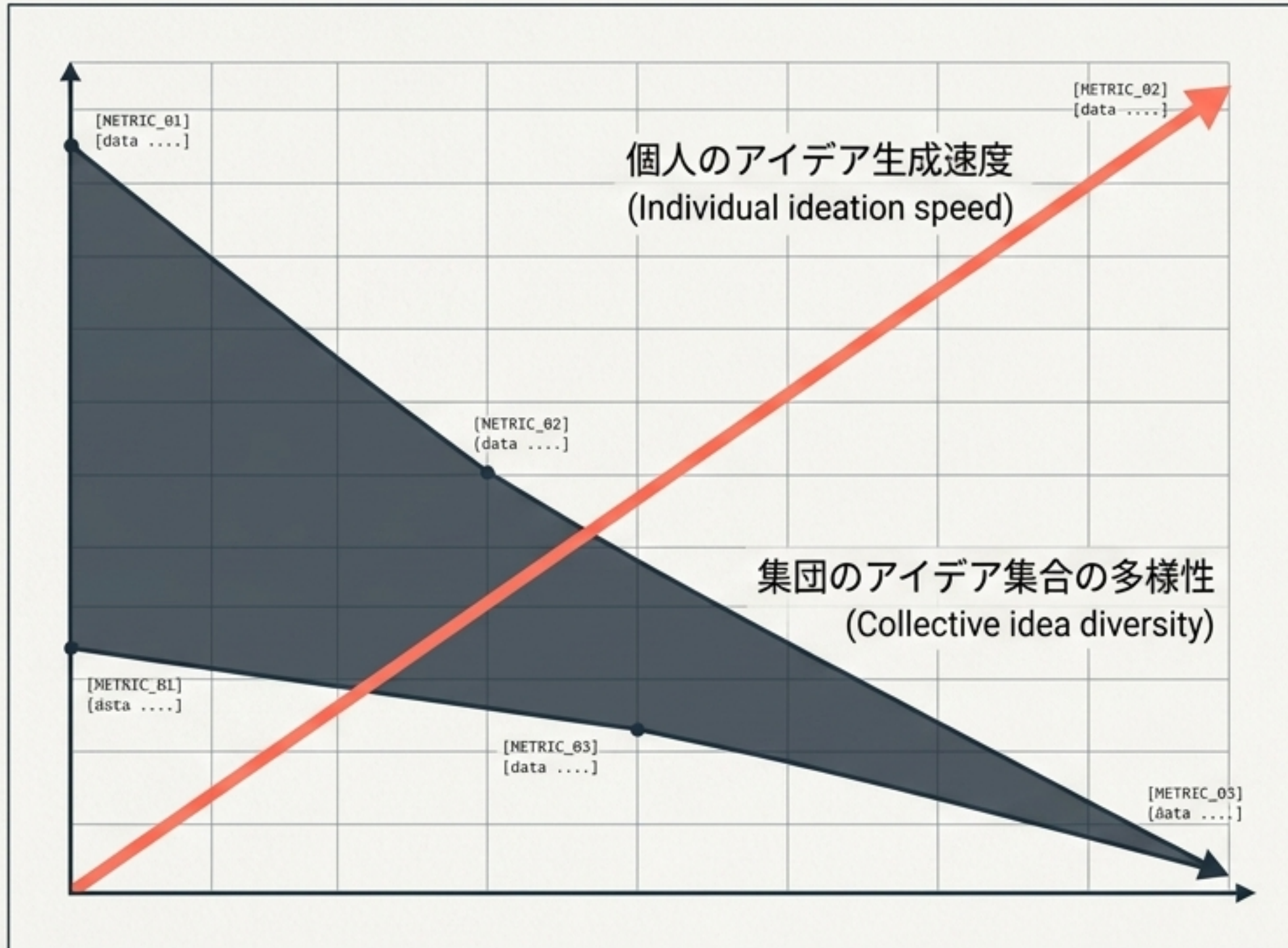
Traditional (Before AI)



GenAI Workflow



集団創造における「創造性の囚人のジレンマ」



⚠ [課題 - The Problem]

実測研究（ChatGPT支援のブレスト等）が示す通り、AIは個々の品質を上げるが、アウトプットが同質化し探索空間を狭める傾向がある。

[解決策 - The Solution]

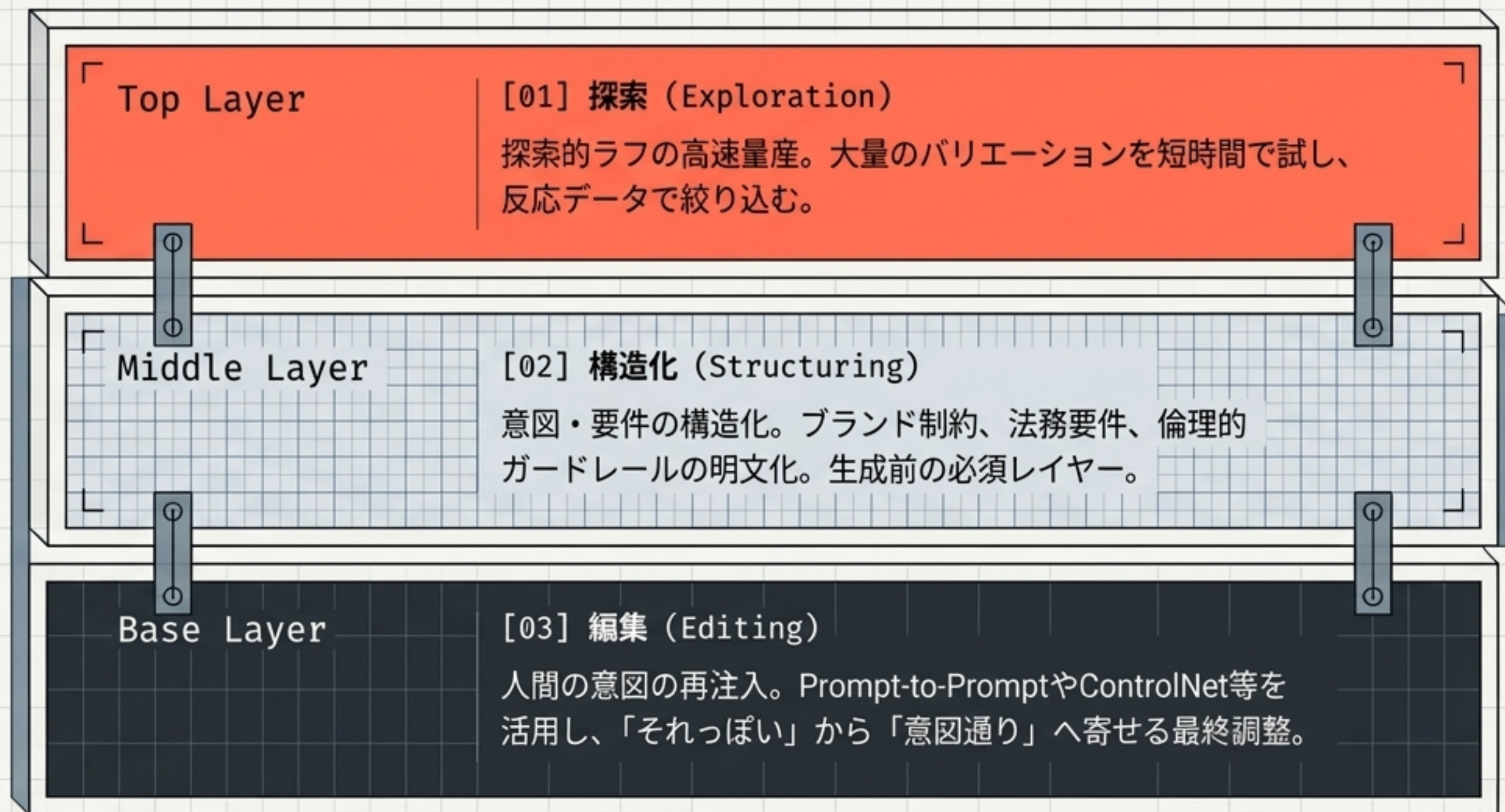
評価指標のアップデートが必須。「美しさ」や「意味一致」だけでなく、システムとして以下を測る仕組みが必要：

[[METRIC_01] 多様性 (Diversity)]

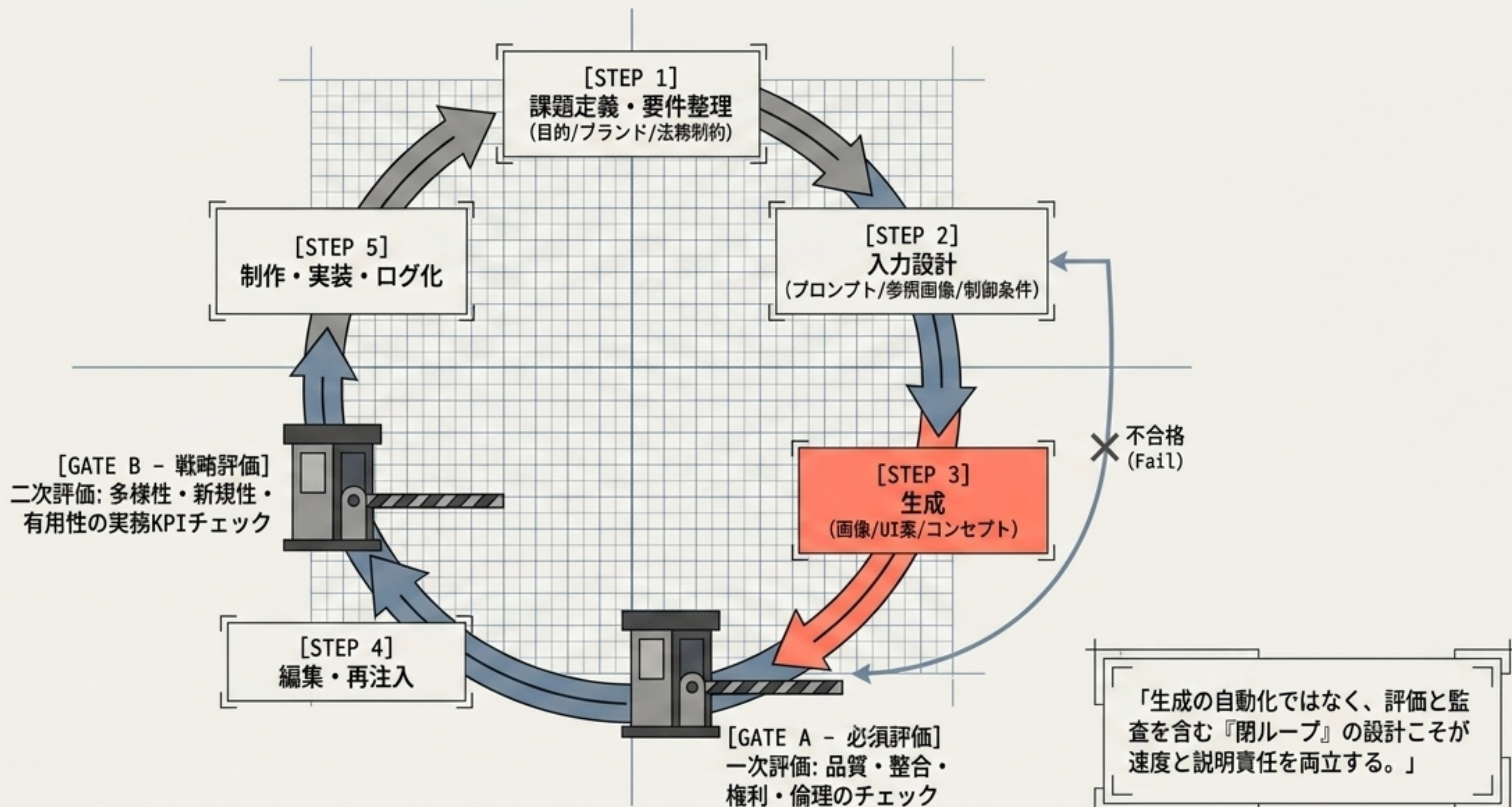
[[METRIC_02] 新規性 (Novelty)]

[[METRIC_03] 有用性・精緻化 (Usefulness)]

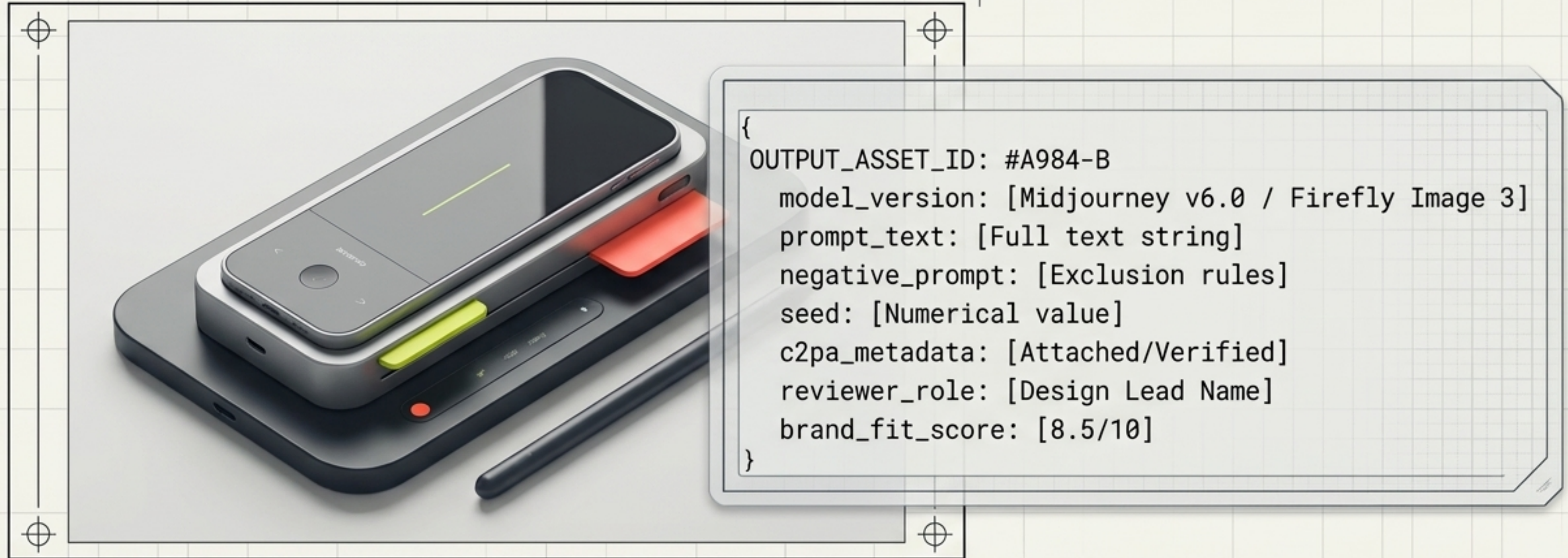
魔法の杖ではなく、3つの明確な管理層からなるプロセスへ



反復生成と監査ログを統合する「ヒューマン・イン・ザ・ループ」

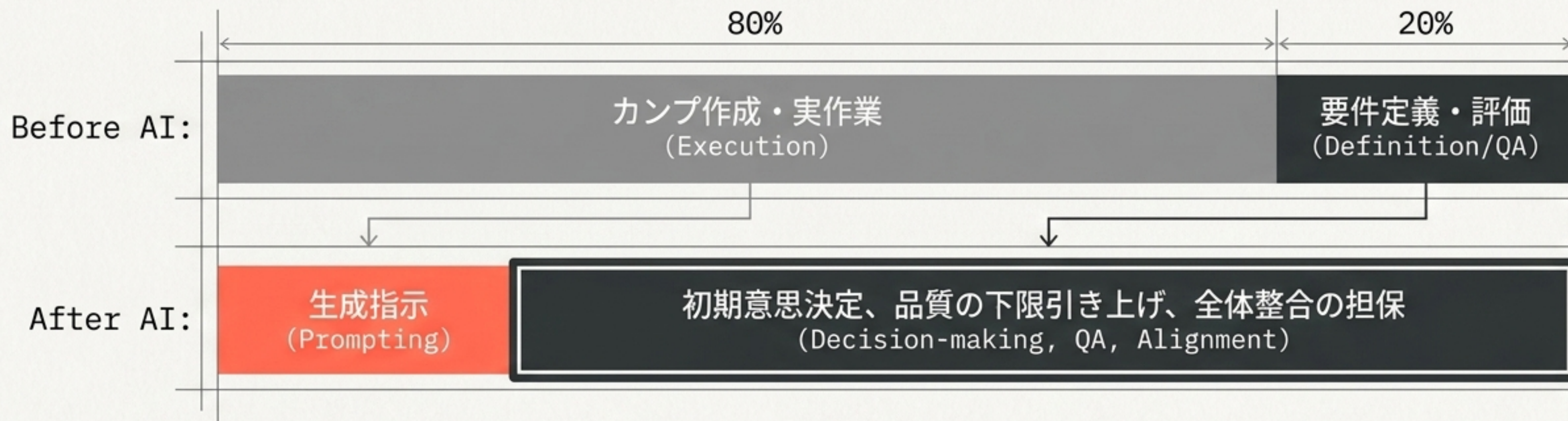


情報管理と透明性のメタデータが「納品物」の一部となる



生成プロセス（プロンプト・シード値・モデル版本）と評価ログを設計資産として扱うことで、初めて再現性、説明責任、そして後追いの権利監査が実務上で可能になる。

デザイナーの役割は「作る人」から「基準を設計し品質を担保する人」へ



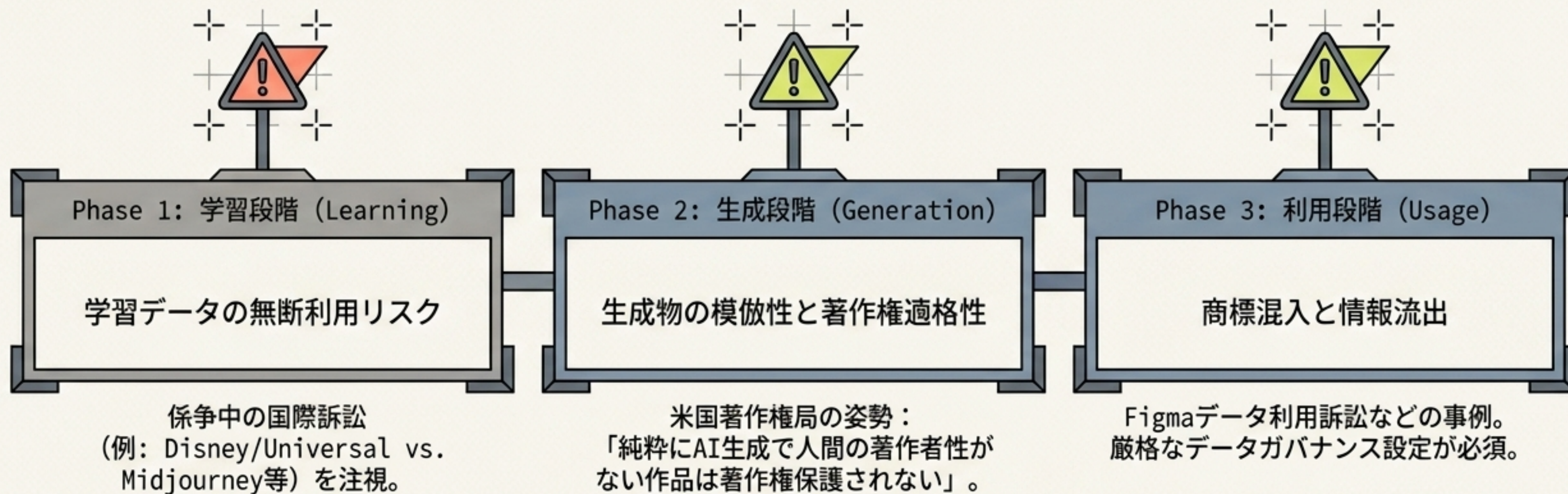
【決定権の移動】

非デザイナー職（営業等）が生成AIで初期カンプを作れるようになり、初期意思決定が前倒しされる。

【品質管理の焦点】

「生成の上限」を求めるのではなく、出力検査（商標・人物表現・誤情報の排除）による「下限の引き上げ」が主務となる。

著作権・法的リスクは「確率的なミス」ではなく「制度的なビジネスリスク」



商用利用のリスク低減策として、Adobe等による学習データの透明性担保と「IP補償（インデムニフィケーション）」の活用が重要。日本の文化庁チェックリスト（2024年3月）に準拠した工程別判断が必須。

探索力・コスト・法的安全性のバランスに基づくツール選定

	主な適用領域	戦略的利点	制約・法的リスク	コスト構造
Adobe Firefly (法人向け)	大規模制作 / ブランド運用	条件付きIP補償・ 商用安全性	補償対象の法務精査 が必要	要見積・契約形態依存
Midjourney	ビジュアル探索 / コンセプト	生成品質と探索速度	学習データ由来の訴 訟リスクが外部環境 として残る	\$10~\$120/月
Figma AI	UI・プロダクト デザイン	協働環境への統合・ プロンプト→UI	顧客データ利用の規約 統制要件（訴訟報道 あり）	\$16/月+AIクレジット
Stability AI (オープンモデル)	機密案件・自社 ホスト	自社要件に合わせた 完全な運用統制	運用責任が自社に集 中。ライセンス収益条 件	GPUコスト+収益条件 変動

「とりあえずツールを配る」から脱却し、環境とガバナンスを同時設計する

Phase 1: 短期（～1か月） - 基盤構築

- 対象業務を「探索（ラフ量産）」に絞りPoCを開始。
- 文化庁チェックリストを基に、禁止プロンプト（人格権/商標）やデータ持ち出しルールを明文化。

Phase 2: 中期（1～3か月） - 評価の組み込み

- ログ（プロンプト・シード等）と評価指標（ブランド・リスク）を案件管理（PMツール）に統合。
- 生成AI特有の同質化を防ぐ「似すぎチェック」工程を実装。

Phase 3: 中長期（3～12か月） - 組織的統合

- 生成AIを前提にした役割再定義（プロンプト作成、評価責任、最終承認）。
- 対外成果物へのプロヴェナンス（C2PA/Content Credentials等）付与方針の策定。
- 用途別モデルの階層化。

探索を極大化しつつ、透明性と評価をワークフローの基盤に据える

「現時点の最適解は『生成AIを使うか否か』ではない。
無数のアイデアを高速探索しながら、それを制御する
評価・ログ・権利の枠組みをいかに実務プロセスへ埋め
込むかが、次世代のデザイン組織の競争力を決める。」

[01 HUMAN INTENT]

人間の意図と制約の明文化

[02 CONTINUOUS EVALUATION]

多様性と品質を持続的に
測る評価システム

[03 TRANSPARENT LOGS]

再現性と監査を担保する
データプロヴェナンス (C2PA)